

共謀罪

議論封殺、数の力の大暴挙

委員会省き、いきなり本会議採決

自公維 異常な強行



「共謀罪は廃案に」と訴える人たち
13日、東京・日比谷野外音楽堂

市民+野党 廃案へ最後まで奮闘

自民、公明、維新の各党は15日、内心を処罰し監視社会を強める「共謀罪」法案を、参院法務委員会での議論を封殺し、いきなり参院本会議で採決するという異常な手段で強行しました。

学校法人「加計学園」疑惑をめぐり、安倍首相・官邸の圧力で行政がゆがめられたことを示す事実が次々判明。共謀罪法案は

審議すればするほど新たな論点が噴出するなど、国民の批判に追い詰められた政府・与党らによる議会制民主主義を根底から破壊する前代未聞の暴挙です。

日本共産党、民進党、自由党、社民党の4野党は一致して、内閣不信任案提出など法案阻止のためあらゆる手段を講じて奮闘。廃案へ最後まで市民と力を合わせました。

審議するほど矛盾 追い込まれた安倍政権

「共謀罪」について安倍政権は「一般の人は対象外」「組織的犯罪者集団に限定」と言っていました。しかし参院審議で、環境保護団体でも「隠れみの」とされ、「処罰される」との答弁が行われました。「何が罪に問われるかわからない」「判断するのは警察」――。法案の恐ろしさがさらに

民主主義
破壊に審判を

明らかになる中での強行です。

「加計にフタをして強行は許せない」という声が広がっています。強行は政権の強さでなく、法案への不信、国政私物化疑惑への怒りに追い詰められた結果です。民主主義破壊の安倍政権に厳しい審判を。

日本共産党